

令和6年度第1回大野城心のふるさと館運営協議会 議事録

1 日時 令和6年8月27日(火) 10:00~11:51

2 会場 大野城心のふるさと館 M2階 講座学習室

3 出席者

市長 井本 宗司

《委員》

林田 スマ(大野城まどかぴあ)

中村 弘峰(中村人形)

宮本 明子(西日本鉄道株)

宮崎 莉沙(名鉄観光サービス株)

古賀 麻美(ままいる)

天野 祥子(ふるサポの会)

片山 一男(ふるサポの会)

※欠席委員 伊藤 信二(九州国立博物館)、松川 博一(九州歴史資料館)

《事務局》(大野城心のふるさと館)

館長 赤司 善彦

ミュージアム担当 課長 佐藤 智郁

係長 島 朋宏/上田 龍児

担当 中藪 眞子/陶山 慎太郎

文化財担当 課長 石木 秀啓

係長 林 潤也/早瀬 賢

4 内容

(1) 委嘱式

井本市長より宮本 明子氏、宮崎 莉沙氏に委嘱状を交付。任期は令和7年1月31日まで。

(2) 運営協議会

①夏季特別展観覧

事務局説明後、夏季特別展観覧

[委員意見]

- ・黄金の茶室は何回か文献で見て内容は知っていたが、畳が毛氈になっていることや障子が赤くなっているということは想像しておらず勉強になった。また、インパクトがあり素晴らしかった。また、今回もライティングが素晴らしかった。見応えがあった。
- ・文化的なことに詳しくないので身近な感想になるが、入った瞬間の黄金の茶室に圧倒された。解説があり面白く聞くことができた。一言解説も見やすく良かった。
- ・お茶に興味はなかったが今日は解説付きで見やすかった。通常私が一人で行った時には解説がな

いとさらっと見て出てしまうのかなと思うが、一言解説がキャッチーで面白さもありよかった。入った瞬間の黄金の茶室は興味がない自分でもすごいと思った。そこに関しては興味がない人でもわかりやすいような解説がもう少し詳しくあればいいと思った。

- ・サポーターとしてシフトに入った際に、お客様から今回の展示のキャプションが読みやすくわかりやすくよかったというお声をいただいている。
- ・家に急須はあるがあまり使ったことがない。おうちにある急須を持ってきていただいて、お茶のおいしい入れ方などのワークショップをすれば、家でお茶を子供たちが入れることができるようになったり、私たちも身近に感じるようになるのではないかな。どうしてもすごく苦くなったりすごく薄くなったり、むらがあるお茶になってしまうので、そうすることでもっとお茶を身近に感じるようになるのではないかな。
- ・黄金の茶室はインパクトがあった。いろいろなところにあるものを一度に見ることができて非常に良かった。読みやすい簡単な解説がこれまでに比べて改善がみられてよかった。
- ・エレベーターの中に福津市からお越しになっているお客様がいた。いろいろな方々が興味を持って黄金の茶室を見て喜んでいただいている。お茶という文化に触れていただく良い企画になったのではないかな。様々な連携も含めて次の企画が楽しみである。

②過去会議で出た意見への対応、進捗

事務局から、資料に基づき説明。

③事業報告（令和6年1月～8月分）

事務局から、資料に基づき説明。

〔委員意見〕

- ・令和6年度は2回「ままいる一む」を開催させていただいた。8月の平日に開催した際は参加者は2組だけだった。参加者からは、開催されていること自体を知らなかった、2階にたまたま来て初めて知ったというご意見をいただいた。また、何か子供たちを惹きつけるワークショップがあればもっと来館する方が増えると思う。ままいる内でも母親同士のコミュニティでロコミで集まることが多い。子供たちの間でも、友達が心のふるさと館に行ったという話を聞いて自分も行きたくなることもある。例えば、顔ハメパネルなどがあると小さなお子様も楽しめるのではないかな。体験スペースは大事だと思う。
- ・昨年に比べて入場者数が少ない。展示室の中が暗く、それが苦手な方もいるようだ。昨年に比べて子供向けのイベントが少ないと感じる。年配者には楽しいイベントも子供には難しい。
- ・昨年の企画から、人気のある企画展を誘致したり館で企画したりすることができれば心のふるさと館にも人が集まるということが分かった。そのように人気なコンテンツを探したり作ったりすることは大事。子供が楽しめる企画も大切だが他のところでも可能。考古学的なものやお茶のようなマニアックなものは、人が必ずしもたくさん来ないとしても続けていくことが重要だと思う。その趣旨は変えないほうがいいのではないかな。それを軸にしてどういう企画を考えていくか。学生のボランティアによる解説やふるサポの会のご協力や、大野ジョー君などのキャラクターを活用することでマニアックな展示も行ってみたら楽しかったとなるのではないかな。

- ・平日昼前に行ったところ、全体的に人が少ないと感じた。市民に魅力が伝わってない様子であった。子供が楽しめる仕掛けがあると家族で来館する人が増えるのではないかな。
- ・来館者 10 万人という数字に驚いた。大野城市民である自分も仕事で来館するまで存在を知らなかった。市民、特に若い世代はここで何が行われているのか知らない。若年層や団体などターゲットを広く持つべき。例えば、修学旅行の団体などを呼び込むために旅行会社向けのチラシで PR するといったのではないかな。
- ・心のふるさと館ならではのことをぶれずにやってほしい。特別展で解説がある時間を設けるといいのではないかな。たくさん出た課題を前向きに検討して行ってほしい。

④事業報告

事務局から、資料に基づき説明。

[委員意見]

- ・企画について、土器の企画など、色味が全体的に茶色いと感じる。面白いとは思っているので、そこにどうやって若年層や元々興味がない人に来てもらうか。市民に対する周知などを模索していかなければならない。内容も大事だが、一発目のビジュアルが大事だと思うため、ポスターやチラシなどの工夫が大切だと思う。
- ・心のふるさと館ならではのことを探していかなければならない。世代間の違いもあるがバランスを考えながらやって行ってほしい。

[事務局]

- ・特別展の企画の立て方にはここが元々歴史の資料館であるという大きな柱がある。当館としては市内の文化財や歴史に関することは必ず実施したい。夏休みは子供たちで賑わう企画をしたいとも思っている。国宝重要文化財のような市宝と呼ばれる工芸品などを身近に展示をすることも望まれており、それに沿った企画を年に 3 回か 4 回考えている。今回のお茶展は子供たちにおいしいお茶の淹れ方を知ってほしいという思いから始まったがそのような企画は無かったと思う。また、今日ご指摘いただいたように確かに茶色いものが多いなと感じた。秋の特別展はデジタル機器を使って関心を持ってもらえる企画を考えている。ポップなポスターも考えている。子供たちの集客やどうやって人に届けていくかは永遠の課題ではあるが、色々挑戦したいと思っている。いただいたご意見をしっかり飲み込んでやっていきたい。

5 配布資料

・次第

・資料（過去会議で出た意見への対応、進捗・事業報告・事業予定）

・大野城心のふるさと館おすすめ情報 2024 年 9 月号

・各種チラシ「黄金の茶室と福岡のお茶」「三笠の森と日田街道展」「郷土玩具展」「目加田コレクション展 源氏物語と紫式部」「源氏物語絵巻のなぞ」「竹田家文書関連講座」